



目 城 五 報 五

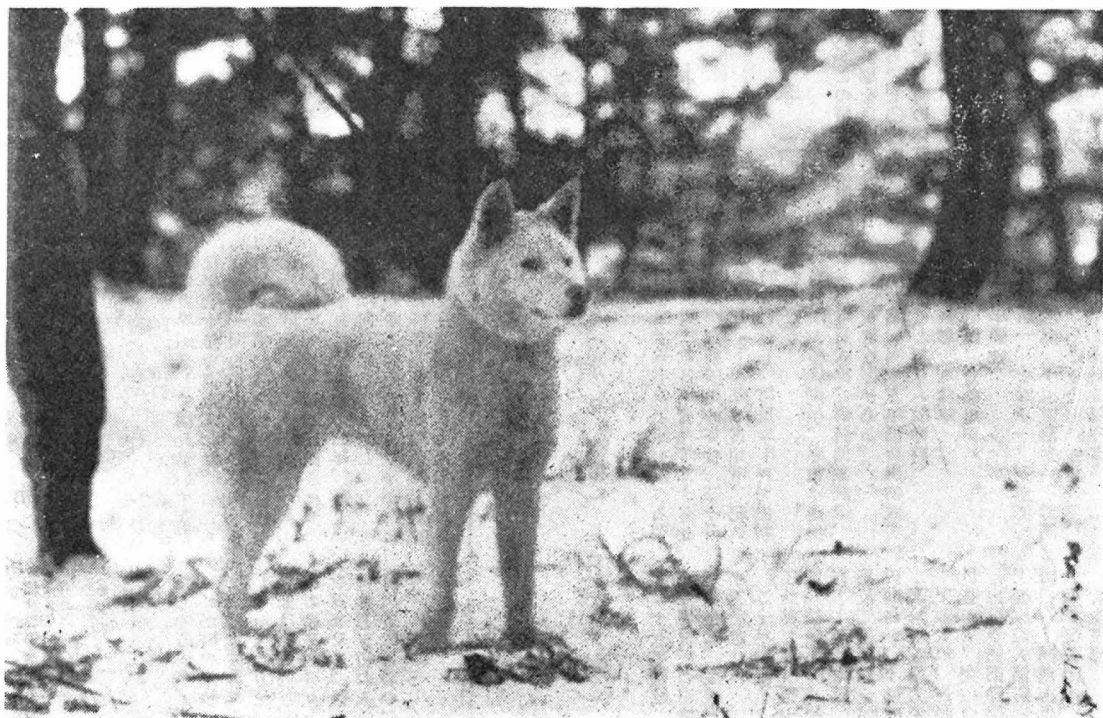
発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課
 電話 (018876) 代 2100 番 毎月 1日発行
 印刷所 小浜印刷所 電話 (018876) 2605 番 (1部5円)
 昭和37年12月5日第3種郵便物認可 郵便番号 018-17



『70』
 明けまして
 おめでとう

・ 秋 田 県 五 城 目 町 ・

※ 町 政 と 町 民 を む す ぶ 広 報 紙



秋 田 犬

写真は 全県一の白湖姫

日本犬の大型犬に属し、毛はやや長くて深く、からだがかんじょうで耳が立ち、尾をまく、昔は闘犬に用いられた。

1月のおもな行事

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 1日 元旦、初もうで | 6日 消防出初式 | 10日 家庭の日 |
| 2日 初荷 | 15日 成人の日 | 24日 青年議会 |

▽ 青少年健全育成運動がますます大きくなっていきます。青少年が明るく元気に事故もなく過ごすよう関係機関、団体からの働きかけも大切ですが、青少年自ら地域で、職場で寒さに負けず、スポーツで心身を鍛え、また事故と非行をなくするため手を取りあって行くことを願います。

▽ 消防出初式、消防人が一堂に会して、団結を誓い、町民のご理解、ご協力によって無火災を結実させるように努めます。

▽ 長期計画の策定アンケートに、夢を託し、忘れないでポストへ……町の方向づけに積極的に参加しましょう。

▽ 今年の本町で第九回秋田県種苗交換会が開催されます。この交換会をどう生かしていくか町民、町、主催者にとって大きな課題といえるようです。画期的な計画を練り大きな成果をあげてほしいものと思えます。

▽ 新年あけましておめでとうございます。一九七〇年といふ年は、好む好まざるとにかかわらず、あらゆる意味で重要な年といえます。私たちをとりまく社会情勢をはっきりと見定め、しっかりと生活計画をたて心構えをきめましょう。





町づくりを
みなさんと計画的に

五城目町長

加賀谷力司

新年おめでとうございます。
昭和四十五年の輝やかしい年を迎え、榮えゆく五城目町の発展を町民のみなさまとともに心から祝福し合いたいと思います。

私がみなさまから町政をおあづかりしてから、十ヶ月になりましたが、今まで手がけましたおもしろなる事業は農免道路、湖東病院に町内から直通電話の設置、昭辰橋、西野橋永久橋の着工、秋山、森吉線の国道升格、昭和三十年を目標とした長岡総合計画の立案策定着手などでありました。この計画樹立に当ってはみなさまからも参加して



新年のご挨拶

町議会議長

工藤孝二

一九七〇年の新しい年を備迎えるに、あたり町民の皆様の御多幸を心から御祈り申し上げます。
六〇年代の本町をとりまく、諸情勢は激しい連続であったし、七〇年代はおそらく、六〇年代にも増して激変する社会に対処してゆかねばならないと考えられます。即ち総合農政、商工業の近代化などいくつ問題をかかえていま

要は全町民がこの激しい現実ふまえ、安易な妥協をきけ、町の構造そのものから、七〇年代に対処する、新しい五城目町の体質造りではなかるうかと思ひます。
それであくまで閉鎖的排他的ではあつてならないし、町民の開發的エネルギーが結集し、展開されなくてはならないと思ひます。どうか今年も一層のこの叱声とお力添えを切にお願い申し上げます。



新しい年を迎えて

教育委員長

畑沢実

教育界が激しく揺れ動いて新たな年七十を迎えました。私たち委員会一同心から皆様の弥栄を祈念致しますと共に新年のご挨拶を申し上げます。

人間が月に到達した昨年、新しい十年は何が起ることでしょう。あらゆる面での社会秩序が乱れ荒れた昨年、新しい時代の精神文化の支柱は如何にしてたてられる

でしょうか。

わが町の学校教育、社会教育もまた総点検の年を迎えたように考えられてなりません。教育環境の整備は物質的な面と共に地域ぐるみの精神的盛り上りを期待せざるを得ません。微力ながら委員会

昭和四十五年

(消) (防) (出) (初) (式)

昭和四十五年の年頭をかざる消防出初式は六日午前九時二十分まで消防庁倉前広場に集合、三十分より上町、下町、古川町、紀久栄町を行進し、町民ホールで出初式を行なう。

当日は表彰状授与、感謝状贈呈のあと町長式辞、消防団長訓示、来賓の祝辞などがある。
なお昭和四十五年消防出初式表彰は次のとおり(敬称略)
黒知事表彰 有功章
鳥井市郎 齊藤鴻司
三十年勤続
武田新一、小野新一、齊藤鴻司、八柳新之助、小玉伊治兵衛、館岡彦一郎、金野登代治、佐藤一美、石井祐太郎、千田源太郎、

- 二十五勤続 石井源悦、石川時男、佐々木政吉、越高義市、金沢周治、加藤四郎、小玉時也
- 二十年勤続 工藤善二郎、栗山幸太郎、伊藤邦雄、松橋兼一、加藤茂松、館岡定吉、小玉兼太郎、齊藤昭三郎、千葉茂、伊藤忠一郎、金子幸之助、佐藤昌一、小熊勝太郎、伊藤豊蔵
- 消防施設協力者 千田源太郎、佐藤道雄、佐藤運蔵
- 伊藤善吉男、菊地合板木工株式会社
- 火災予防運動協力者 上変地婦人消防隊、昭辰町火災予防組合、門前火災予防組合、浅見内少年夜警団
- 町長表彰

- 草皆三夫、畑沢力之助、館岡幸治、栗山昭、上樋口部落
- 町長感謝状 永年勤続退職者 草皆貞介、小林吉蔵、畑沢隆三、畑沢隆、一関重四郎、島崎喜代美、越高鉄美

今年のおもな行事

▽今年のおもな行事を見ると次のようなものがあります。

- 1月 新春座談会
- 2月 冬期に多発する成人病予防住民の申告
- 3月 三月定例会
- 4月 中卒就職生徒励会
- 5月 小、中、高入学式
- 6月 納税表彰式春の交通安全
- 7月 6月定例会
- 8月 自然に親しむ運動
- 9月 成人式慰霊祭
- 10月 馬場目岳町民登山
- 11月 老人福祉大会
- 12月 子供リダー養成講習会
- 12月 九月定例会
- 12月 教育振興会
- 12月 赤い羽根運動
- 12月 第93回秋田県稲苗交換会
- 12月 十二月定例会
- 毎月 共同募金
- 毎月 歳末たすけあい運動
- 10日 第三日曜家庭の日
- 10日 消防の日
- 卒浦大学(老人対象)
- 生活学校
- 商工青年学級
- スポーツ少年団

)((住みよい豊かな魅力ある町づくりをめざして)((

— 1969年のあゆみ —

町政はみなさんのご家庭と直接して働いています。

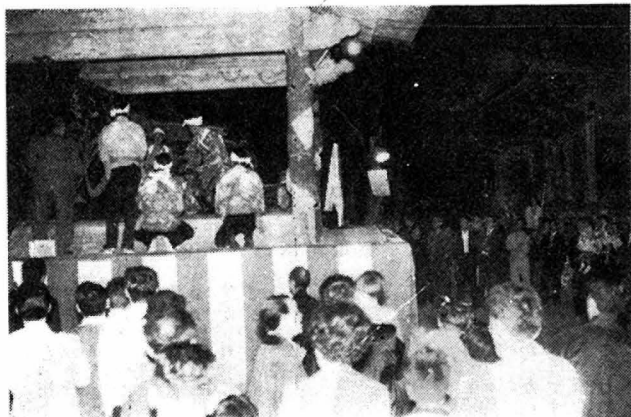
町政の大きな目標は、住みよい魅力ある町づくりの実現でありこれを着実に実行して行くことがわたしたちに与えられた使命です。

昨年それがどのように展開され結実していったのでしょうか。



移動県庁内川小体育館で

7月8日移動県庁が内川小体育館で320人が参加して行なわれ土木行政、林業、農業問題などについて真剣に話しあい大きな成果をあげた。



郷土芸能の育成

5月15日五城目神明社、社楽殿で町が精力的に保存育成を練っている番楽の披露会が催され、中村、恋地、山内、西野番楽が披露され万来の拍手をうけた。



町で用をたす運動

住みよい、魅力ある町づくりの一環として推進された「町で用をたす運動」よい品を安くへの願いが期待されている。

1969年のあゆみ

- 1月 1日 名刺交換会
- 6日 消防出初式
- 18日~20日 全県青年問題研究集会
- 2月 20日 加賀谷力司氏町長に当選
- 23日 電話が一斉にダイヤル式に
- 25日 加賀谷力司氏町長に就任
- 3月 12日 三月定例会
- 5月 11日 恋地七部落に婦人消防団できる
- 15日 番楽披露会
- 6月 16日 納税組合、国民年金表彰式
- 7月 5日 町内で用をたす運動標語決まる
- 8日 移動県庁
- 10日 軌道をしのぶ会
- 8月 16日 成人の式
- 19日 町民と話し合いの日
- 9月 12日 第六回教育振興大会
- 17日~22日 町議会九月定例会
- 10月 19日 五城目・上小阿仁駅伝
- 11月 3日 全県森山登山競技大会
- 22日 いけ花総合展
- 29日 秋田、森吉線国道に昇格二八五線に決定
- 12月 12日~19日 町議会十二月定例会

12月の日誌

- 1日 北ノ又分校開校式
- 4日 世帯更生資金調査委員会
- 5日 五長会
- 9日 教育委員会
- 10日 農委定例会(中央公民館)
- 11日 議会運営委員会
- 12日 町議会12月定例会

町づくりはみんなで

新春座談会

これからの町政

司会 今日皆さんから新春の抱負を放談していただくわけですが、まず魅力ある町づくりから始めたいと思います。昨年二月より町政を担当した加賀谷町長から町づくりの姿勢について一つ

出 席 者
秋田銀行五城目支店長 三森 義美
農 業 伊藤クニ子
五城目農協経済課長 千葉千代美
五城目町長 加賀谷力司
農 業 佐川 俊雄
五城目営林署経理課 大原都喜子
能代北高校教諭 木村 喜之
司 会 北島礼三郎
総務課長 阿部 三郎
保健衛生課長補佐



加賀谷町長

みんな町づくりを町長 もう一年近くなりま

私は二万町民にかわって仕事をしているわけですが、町民みんなの最大公約数をつかんでやってみようかと思

っています。私が百歩前進するよりも、町職

員一七六人(役場、幼稚園、用務員、保育所給食など)が一步前進すれば一七六歩、町民

が一步前進すれば二万歩となりみんな町づくりをしようとするわけですね。昨年は自

らから思ったように盆踊りにとびこんで

ました。反響も大きく今年も職員さんたちもやってみようかと思

っています。町民と一緒

に町づくりに取り組むべきことだと思

っています。町づくりに取り組むべきことだと思

町長 町の展望ということで長期計画をたてているわけですが、その中にも広域行政の線に

田市は量目が違うなど町の商店は正直なよう



伊藤さん

伊藤 農協の月給貯金などである程度借りなくともいいようにな



三森氏

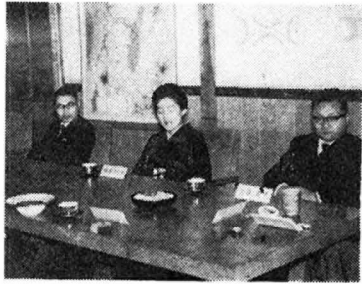
三森 現金売りで安く現金売りで安く

千葉 花輪町の場合特産物に力を入れていた方がよい。会場も大いに考えた方がよい。会場の順



千葉氏

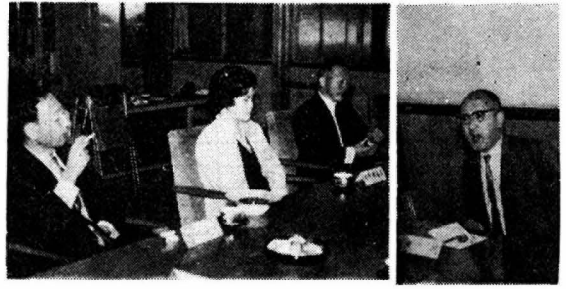
町長 商店、消費者に断絶間があるのではないかと、消費者は頭ごなしに町のもの高いと決めてかかる傾向があるが、総合的にはそう違わないよう



昨日は夢

今日の可能性





会期の前になれば効果的でいいのだが。町長 だいたい前になるようです千葉 八郎瀧町からの連絡は幅はどうか。町長 交換会までは入口まででかしたと思っていい。それから会場はまだ決っていないというのは町を通じて会場にいくようにしたいからです。

農業に思いやりを

司会 本町の産業は木材工業が主体ですが、全町民の半分以上が農業です。町長、工場誘致は定着したものを見てみる。



佐川 氏

町長 ことし種苗交換会をやるわけですが、とらえ方が二つあると思います。一つは町民と町が交換会をそのものを秋田県種苗交換会から日本の種苗交換会にして日本の農政にどうを生かしていくかという事です。この機会に町をよく知ってもらえるよう町の紹介にも力を入れていきたいと思つてます。町は協賛農協が実際に担当するのでよろしくお願ひしたい。

千葉 中央会で担当することになるようです。町長 交換会の前か会期中になると思いますが本町で「ふるさとの歌まつり」が催される事がほぼ確定してあります。町では交換会決定の瞬間から交換会は開始されたという心構でがんばっています。佐川 「ふるさとの歌まつり」は

います。米国では米が栄養価あると再認識されている。また学校給食などにもとり入れて行く運動はすすめて行くべきだ。佐川 基盤整備も大切だが、急にできるものではないと思う。加賀谷 本町の場合は兼業が主体でそれにあつた工場誘致が大切だと思ひます。伊藤 部落の主婦が町の方へ働きもあつており工業的な関係も仕事できるものがほしい。

施設で商業の振興

司会 住みよい豊かな魅力ある町づくりの底辺ともいう教育、青少年の活動、社会福祉などについて 保育所を はやく 大原 私自身この町は住みよい町なのを考へてみたわけです。赤ちゃん、幼児、学童、青少年、老人



大原 さん

はどうかと、あそび場、保育所などもなくどうもまだままだのように思われまふ。町長 保育所が町部になつたという大きな問題です。今年中にめどをつけおそくとも来年中には解決したいと思ひます。また妊産婦に全員には栄養食品の支給、老人対策として栄養ながら敬老祝金を差し上げて、ひとり住いの老人を対象に家庭奉仕員を訪問させ

日常生活の世話をしていまして保健婦も一名増員して昨年から二名で努力させています。さらに一層の改善にとめたと思ひます。学校施設は水準に近いものと思ひますが、他の施設は遅れています。保育所、公民館、グラウンド、役場など、こうしたものを充実すると商業の振興にも役立つと思ひます。



木村 氏

物と心のバランスを大切に 木村 住みよい町づくりには物的充足のほかは心情的なものが要求されているといえる。森山の保護すず虫の保存、郷土芸能など郷土感を物的なものと同時に考へてはしい、住みよい町づくりの基本は家庭の和にあると思ひます。両親への断絶感をなくすように社会教育でとりあげ物的充足、心情的一体化を計つてほしい。

町長 湖東部が単一行政体になると思ひが、しかし現在二万人を有する町を主体に湖東部一帯に順応して行けるような町づくりをしていきたいと考へています。千葉 今年の植えつけがどうなるのか動揺している。佐川 奨励品種でも格付されている加賀谷 作るのには奨励したが、販売の方向づけがなかった。セイルスのないものはいけなない。

長期計画の実現に期待

司会 今までのいろいろなことについて座談してきたわけですが、ずばり一言つづお願ひします。三森 商店を活発にするよう力を入れたと思ひます。伊藤 子とのつながりを強くするために勉強して行きたいと思ひます。テレビも思いきつて学習番組をもとり入れる。また部落の中でも学習意欲があるのので五城目町文庫の活用も考へたい。

千葉 七〇年は農業の試練の年であると思ひますので、関係機関の結集を計つて前進の年にしたいと考へています。佐川 土壌改良をはじめうまい米づくりにがんばりたい。

大原 三十五才からは自分の顔といわれています。顔に責任もつてがんばりたい。また長期計画と現実をよくかみあわせて住みよい町づくりをしてほしいと思ひます。木村 計画の実現の年にしたい。また私ごとでは新しい感覚でじっくりのことにとりへんでみたいと考へています。加賀谷 長期計画という何かトツビなアイデアでも飛び出して別世界のように考へられるが、そうではなく町民の誰でもが日常考へている。現実のものをどう、どこにどのようなのをどのように実現してゆくかという計画をねって無駄をなくして町の発展を計ろうとするものです。これを實現するため町民もどもどりくんでいきたいと考へているわけですが、司会 町民から卒直な声を聞き、それを行政面に生かす両面通行を土台に町づくりを行ないたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひします。今日はお忙しいところごろうさまでした。

《ごみ収集日》

家から出るごみ収集日は次のとおりです。

町名	1月			2月	
	1回	2回	3回	1回	2回
希望ヶ丘	12	23		5	
田町	12	23		5	
今町	7	20	27	2	10
御蔵池	7	20	27	2	10
小川原	7	20	27	2	10
新一	13	24		6	
新一	8	19	31	13	
古川	8	19	31	13	
新古	8	19	31	13	
新新	10	22	30	4	12
紀久	10	22	30	4	12
紀久	13	24		6	
仲長	6	16	28	9	
仲米	6	16	28	9	
築地	6	16	28	9	
昭辰	9	21		3	
昭辰	9	21		3	
雀館	5	17	25	7	
中川	5	17	25	7	
中館	5	17	25	7	
岩城	5	17	25	7	

※ 収集車の巡回について、次の事項にご協力下さい。

1. 収集車が町内を巡回する前に各自ごみ容器を道路へ出しておくこと、また容器の近くに収集車の邪険になるような物を置かないように
2. 収集車が入って行けない小路に面している方は当日巡回道路まで容器を適当な場所へ持出しておいて下さい。
3. ゴミ容器には名前をつけて下さい。

◎ごみ処理手数料3期分(12月25日納期長)まだ納めていない方は早目に納めて下さい。

《水道課からのお願い》

いよいよ、もっとも寒い月です。水道管の凍結防止のために、不凍栓の使用をお忘れなく。

メートル器も取付け場所によっては、凍結破損しますので、一月から三月までの検針休止の間、保温保護にご協力下さい。

二年目にはいる 農業構造改善事業

大川地区ですすめられている農業構造改善事業は区画整理事業、暗渠排水事業がおわり機械導入事業にはいる。

トラクターの導入、榨納庫の建設などでこれから関係者と話し合いのうえ推進することになっている。



おしらせ
おしらせ
おしらせ

防犯連絡所設置

警察署と防犯防火組合ではこのほど事犯、事故をなくして明るい町づくりをしようとして町内、部落に「防犯連絡所」をもうけ町民からの通報、意見や要望をどしどしとりいれようというものです。

防犯連絡所は次のとおりです。
部落、氏名、電話(敬称略)

岡本、渡辺時司、二一〇九、
野田、佐川俊雄、二二二二、
西野、石井孫右門、八三九七、
谷地中、佐藤春太郎、八四二八、
四屋、佐藤善一、一日市二六八五、
石崎、加藤秀一、一日市二八〇四、
下樋口、渡辺敬助、一日市三二七六、
大川本村加藤甚一日市三〇三七、
新畑町、渡辺良太、三二五一、

一番町、嶋崎幸夫、
仲町、武石二郎、二〇六八、
米沢町、錦織一男、三〇一二、
田町、伊藤幸太郎、三四一九、
中川原、遊佐明、二六二四、
岩野、島井浩太郎、三〇三〇、
館越、本間喜太郎、三六六一、
久保、一関重一郎、二四八一、
上山内、佐々木伊四郎、七四七七、
下山内、伊藤伍助、七四四二、
富田、原田功三、七三六六、

八田、伊藤真一郎、七三〇七、
台御藏下、伊藤重雄、七二七九、
脇村乙市、伊藤次郎、七四九九、
落合、島山豊、七二二九、
高田千日、水玉太美雄、七三〇三、
北村、伊藤徳美、七一六九、
高樋、伊藤勇蔵、七一五六、
帝釈寺、草皆茂樹、二〇四七、
町村、伊藤弥一、六二二一、
門前、齊藤周作、二八一五、
蓬内台、宮城清兵衛、六三〇四、
中村、児玉孫左エ門、六四六三、
平ノ下、金野盛平郎、六三八八、
水沢、石川良蔵、六五一三、
坊井地、佐々木久美雄、二八六八、
杉沢、石川亮、六六一八、
北ノ又、近野房太郎、六六七二、
黒土、伊藤常吉、七八七三、
湯ノ又、石井正一、七八二一、
小倉、沢田石忠一、七七二九、
湯ノ又、岩谷金広、七八〇六、
浅見内、猿田佐太郎、七五三七、
滝ノ下、工藤善正、七五二六、

冬期間の路上整備
駐車、物件に注意

冬期間中の路上使用についてはいろいろな面で支障があります。除雪などの場合、物件の破損、また正常な除雪ができないので、駐車、物件などには充分注意下さい。

また、ゴミ箱などの付近に雪が多くて収集が出来なかったり、能率があがらない場合が多いので、特段のご協力をお願いします。

公害苦情など
あつせんのおしらせ

近年産業構造や生活様式の変化等によって、公害に類する紛争や苦情が発生しつつあるようですがこれが解決のためあつせんをしてお互いが住みよい環境の確保につとめたので、そのようことがありました。役場の保健衛生課へお出でください。なお申立の際必要とされるものは、申立人の氏

名(代表の場合は関係者の連名)住所、職業、電話番号、相手方の氏名、住所、電話番号、発生場所の見取図、公害の種類、発生施設名、被害の状況、公害の地域(範囲)、被害人口、世帯数、紛争などの経過の概要、申立の趣旨などです。保健衛生課

こんにちは

五年年金です

わたしは、こんど国民年金に新に登場する五年年金です。

近く大幅に改善される国民年金のなかに、あなたにも拠出制度の老令年金をさしあげようとしてスタートすることになりました。

保険料を、わずか五年間かけるだけで、終身、拠出年金をたのしめるのが、この五年年金です。

明日の生活、明るく、豊かなものにするために、二度とないこのチャンスをお逃がさぬよう、あなたのご加入をお待ちしています。

対象者明治三十九年四月二日、明治四十四年四月一日生

保険料一月につき七百五十円
給付年額三万円(月二千五百円)
将来はベースアップも期待できます。

加入申込は役場窓口で

町議会十二月定例会

昭和四十三年度各決算を認定

町議会十二月定例会十二月十二日招集され十九日までの八日間、十四日は日曜日だったので実質七日間、役場第一会議室で開かれた加賀谷町長施政説明、決算特別委員会設置、一般質問、議案上程並びに質疑応答、委員会付託同審議と十八日まで続き、翌十九日は本会議を開き、各委員長報告、質疑を経て全議案を議決して、八日間の町議会十二月定例会を終った。今議会で可決した議案は町長提出二十件、陳情、請願は総統審査中のも加えて九件、内採択五、統統審査二、不採択二でした。

これに對いして町長は保育所建設は緊急の度合が高いのでより早い時期に解決したいと答えた。
国道昇格を高く評価
吉藤明議員は秋山、森吉線の国道昇格問題にはらわれた町長の努力を高く評価するが、就任から現在までの加賀谷町政をどう評価しているか長期計画機構の改革、町で用いたす運動について質問した町長、町で用をたす運動は功罪相半ばしていると反省しているが町民の協力のもとにより傾向が出ていると思う。(例、タバコの消費量の増加)

長期計画は自治法の改正により制度化された。本町は一度進んでいたことになる。この計画には多くの時間をかけてよく検討したいと答えた。

開発公社の必要性について
分銅良一議員は開発公社の設置

について昭和三十八年自治省は市町村に開発公社の設置を抑制している。町費からの支弁が非常に多いのではないかとという点から質問した。

町長、自治省が抑制したにもかかわらず、つくられる現実、緊急度のこと、たとえば、昭辰橋の土地買収の場合、必要であったこというしたことからつくった方がよいと判断したと答えた。

町税賦課徴収条例の一部改正
地方税法の一部改正ともなうもので、町民税の課渡所得の課税の特例に関する改正でこれによって総合所得の計算から分離課税になったもの。

集落再編成促進条例
集落を再編成し、健全な地域社会をつくるため、小集落の移転を図り、へん地小集落を解消し、住民の均衡ある福祉の向上を目的としたもの。

開発公社の事業の総合調整および助成に関する条例
町の事業にかかわる土地の取得用地の造成及び施設の工作並びに処分しようとするもの

印鑑条例制度
印鑑の登録及び証明などに関する事務が、町の固有の事務で、非常に重要性を有するので、条例を制定し、正確かつ円滑な運営をはかるうとするもの。

昭和四十四年度一般会計補正予算
総額五六〇八千円を追加した一般会計予算で、財源別には特定財源二五、一六二千円、一般財源は三〇、九二六千円で、才入のおもなものは、
財産売払外面外四ヶ所原野三、〇四万円
前年度繰越金
一般会計二六〇五八千円
円五小特別会計七六九千円
集落再編成事業起債五、〇〇千円
才出のおもなものは、
基幹集落振興費七、五五〇千円
合併十五周年記念祝賀行事九二五千円
稲作特別対策補助一七、九四五千円

昭和四十三年度五城目町一般会計歳入歳出決算認定について
一般会計の総額は五億七千四百五拾五万円、歳入の総額は四億八千五百四拾九万円で差引式千六百五拾五万円の繰越金を生じた。
また、決算は、その計算において誤りなく証書類もよく整備されていると認定されたもの

あなたの夢を総合計画のアンケートで
町では総合計画策定にあたってアンケートをとりまとめています。はやくに投函下さい。またアンケートについて関心をいただき、次のことについて問い合せがありましたのでお答えします。
都市計画(区整理)
市街化地域の宅地などの造成事業

社会福祉協議会の法人化
現在、社会福祉協議会の活動規模の拡大と内容の複雑高度化にもない、その組織を整備して、行来は社会福祉施設の運営をも行い得るような体制に載するために法人格とするもの
宅地成分譲
宅地を造成して、個人に分け与えること

土地盤整備
田の区画整理、暗渠排水および農道の整備
公共下水道
各家庭の便所を水洗化して、それを一定の所に集めて処理する。これによって、今までのくみとりの不便が解消されることになる。二月号にくわしく記載します。

集落再編成促進条例
へん地小集落解消の移転に助成

現在、町や村の人口および戸数が減り、集落ごとにもみてもその過疎状態となってきた、特に山間へき地の小集落にあつてはその現象がはなはだしく、集落としての昔なりの共同体型すら出来ない状態になつてゐる。

そのようなものがこの町でも二集落にとどまらなくなった。ところが反面時代は生活水準の向上は大きくなって来ており、この町は町なりの標準的な公共施設及び都市的施設の利用体系を住民全体に均等に及ぼすために基幹集

落にその施設整備を図ろうとする構想のもとにまずへん地の小集落解消を、推し進める計画をたてたところが幸にも県にもこの小集落解消事業に援助する要綱を設けられその促進を図ることとなつたので町では富津内地区の下北口及び川堤、内川地区の滝ノ下及び大場の集落を対象として今回、集落再編成促進条例を制定、へき地小集落解消策としてその移転経費に助成

協力を進めることとした。この制度はその集落が集団移転を原則として、移転する世帯に対し五〇万円以内の補助金と一〇〇万円以内の資金融資(年三分の利子、七ヶ年の返済)の措置を構ずるものであります。
なおこのことにつきましては関係住民の意思を充分尊重するとともに移転後の営農及び生活指導に協力して行きたい計画であります

ふるさとへの心

民俗資料を大切に



民俗資料とは……文化財保護法では次のように定義しています。「衣食住、生産、信仰、年中行事などに関する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件でわが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」さらに同法ではこの民俗資料を有形のものと、無形のものとに区分している。

このことをよくだいていきますとむかしの人々が生活や仕事につかっていた道具、品物でそれらからその時代の風俗、しきたりがわかるものをいいます。

1 民俗資料は生活の中から生まれたものです。

民俗資料は、特定人の手によってつくられた美術工芸品(宝物)などと異なり、また歴史上の事件や特定人物の事跡との関係においても価値があるというふうなものでもなく、庶民が祖先から繰り返して伝えてきた日常生活に関するものである。

みんなの家の中や周囲にもある普遍的で身近なものであり、生活に密着したものである。

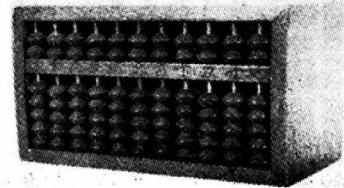
平凡で日立たぬものではあるがそれは日常生活の必要からつくられ、工夫され、改善されてきたもので、わが国固有の伝統文化の本質を示すものであり、国民生活の推移の理解のため欠くことのできない重要な文化財である。

3 民俗資料にはこんなものがあります。

(1) 生活につかっていたもの。



ちやうし



そろばん

ス、糸まき、こだし、ねこ、そり、ます、馬具、馬餅、もっこ、背中当て、背負籠、てんびん棒



たてりす

わらたたき棒



背中当て

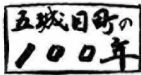
ぼっち、みの、けら、さしこしきり、はんでん、ももひ

2 みんなの力で保存につとめよう
民俗資料は、社会生活や生産様式などのうつりかわりとともに変移し、消滅していくものである。またそれは、多くの場合実用価値がなくなれば失われるものであり、観賞の対象として尊重保存が期待されるものでもない。

しかも今日の変動期に際して正しい伝承が刻々に失れつつあるので民俗資料の保存について深い理解をもち、その活用をはかりたいものです。

発展への努力

小野 一二



15

農村部不況と町の大火だけではない、中心産業である製材業の伸びや、中米の町の不景気の大きな原因であった。

製材業は明治末から近代的設備への切りかえがはじめられ、(④参照)大量生産のシステムにかわつた。大正末には東京市市場でも固い地歩を保つようになっていた。しかしその割に戸数も人口も明治中期以降のびを示してい

ないのである。製材業の伸びややみの原因をさぐってみると、①沢が浅いので、原木を他の土地に求めなければならず、能代など比べ発展の規模が小さく遅れたこと、②町の割合に大きい商業資本は保守性が強く、産業資本として投資されなかつたこと、③町の位置そのものが少なからず不利な立地条件であることを知りながら、それを有利に

しようとする努力がなされていなかったことなどが考えられる。特に④は「鉄道すれ」(④参照)から今日に至るまで町発展の上でガンとなっている。

こうした不振の状況から抜け出すようと努力した指導の立場にあって、宮田礼蔵の三人の町長は今、今回は米田貞治にスポットを当ててみよう。

米田は明治四四年から大正四四年まで町長の席にあった。奥羽本線をしく計画ののきをいて、早速鉄道院や出先の工事責任者に陳情して五城目を路線に入れ、町民に鉄道の必要を説いてまわった一

人であった。しかしそれは町論の分裂によって成功しなかった。町長時代は、泰知事を説いて五城目一日市間の道路を四間幅の直線化改修工事を選定させた。彼は八千円の補助金を得て議会の議決をもとめたが、地元負担がいやだという強い一部の反対によって補助金を返上しなければならなかった。

これを注いで当時県内有数の道路といわれるようにした。また一米線と呼ばれる一日市、米内沢間の鉄道を計画して、機会あるごとに陳情している。これが一つの運動として三年(一九一四)大きな盛り上がりを見せた。第一次大戦の好景

気をバックとしたものであったがその後が続く大恐慌によって結実をみなかった。しかしこの運動はその後かねばり強く続けられた。これと平行して五城目、富津内上小阿仁、米内沢の有力者を中心一米道路改修運動も盛んに行なわれていた。

米田は元年に郡立養蚕伝習所を誘致開設し、四年五城目電気株式会社を設立。十月二日送電を開始している。また自力で真坂の湖畔開墾小嵐山の杉苗圃の経営をしてい

この後、渡辺の軌道会社設立、宮田の種苗交換会誘致とグラウンド建設と、つづくのである。